宮城県中学校長会

会　報

令和２年度
宮城県中学校長会 第71回総会開催される

総　会　概　略

例年県内校長が一堂に会し，新年度の士気を互いに高め合う総会ですが，第71回宮城県中学校長会総会は，新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み，理事が地区を代表して参加する形で行われました。６月２日（火），ホテル白萩を会場として，少人数ながら厳粛な総会となりました。

佐藤剛総務部長の開会宣言の後，中里寛会長の挨拶がありました。

今回退職された27名の校長先生方を代表して，前会長である鈴木一史様にご出席をいただき，感謝状が贈呈されました。鈴木様は挨拶の中で，「これまでの歴史の中で人々は，感染症に対して“祈ること”，“絵を描くこと”，“改元”等を蔓延防止の策として生きてきた。現在の新型コロナウイルス感染症も同様に，校長会として全ての英知を結集して対処していかなければならない。感染防止に向けて話し合った結果を受け，その結果に対して団結して全うしようと努力するのが校長会としての在り方である。健康に留意しつつ，自身の時間も大切にし，生徒，保護者，地域のために活躍していっていただきたい。」と話されました。

続いて，前年度と今年度の事業及び会計の報告後，宣言・決議について承認され，髙橋義孝副会長が宣言・決議を力強く読み上げました。

狩野隆副会長の「コロナ感染防止の取組は生徒に自主自立を指導する好機である。ピンチをチャンスに変え，中里会長を中心に団結したい」という挨拶で閉会となりました。

あ い さ つ

宮城県中学校長会
会　長
中　里　　寛

青葉のまぶしい季節を迎え，学校再開とともに県内各中学校にも元気な子供達の声が戻ってきました。万物のエネルギーがみなぎるこの時期に，規模縮小とはなりましたが，令和２年度宮城県中学校長会総会が開催されますこと，心より喜びたいと思います。

本会はこれまで，宮城の中学校長が連携を図り，中学校教育の全領域にわたり，当面する課題の検討や研究協議，関係機関への積極的な提言や情報発信により大きな業績をあげてきました。この歴史を築いてこられた先輩校長先生方のご尽力に，改めまして敬意を表したいと思います。

さて，各学校におかれましては，今回のコロナ禍の影響で毎週のように通知される各種ガイドライン等に基づき，慌ただしく対応に追われて来られた思います。学校が再開された今，新しい生活様式を身につける指導に心を砕きながらも，近い内にやってくるであろう第２波，第３波への備えを並行して進めなければならず，今後も学校現場は，多忙を極めるであろうと思われます。カリキュラムの消化，学校行事の計画変更，指導場面での感染症対策，ネット環境の整備等，数え切れない課題が山積しており，校長先生方の悩みも尽きないものと推察いたします。

３ヶ月にわたる休業措置の間，私達中学校長の脳裏にあったのは，「いかなる場合でも子供達の学びを止めるわけにはいかない」という強い使命感でありました。学校に対する社会の要請はますます高まる中，このことは引き続き私達教育者が，心して取り組んでいかなければならない課題であると言えます。

さて，今回の長期にわたる臨時休業により，改めて気づかされたことがあるように思います。それは，子供達，保護者，地域にとって，学校が単なる子供の学びの場というだけでなく，子供の生活や心の安定を支える，社会のセーフティーネットとしての役割をも果たしているという現実，そして非常時にそれを維持するための，教職員の日頃の備えの重要性ということでございます。

さらに，このコロナ禍でより決定的になったのは，世界はこれまで人類が経験しなかった予測不能な，不確実性の高い時代に入ったということであり

ます。これまで以上に子供達が自立的に生き，社会に参画するための資質・能力を育む学校教育の重要性が高まったという事実を重く受け止め，日々の指導に具現化していかなければなりません。

また，ご承知のとおり，来年度から新学習指導要領が完全実施されます。各学校では全体計画や年間指導計画等を作成してこられたと思いますが，この実施にあたっては，校長先生方がリーダーシップを発揮しながら，この変革の時代を好機ととらえ，生徒や地域の実態を踏まえ，カリキュラム・マネジメントを計画的・組織的に推進していくことが重要であると思います。

今，私達中学校長会は，今後も新型コロナウィルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ，この変化激しい新しい時代の中学校教育の課題に対応し，教育基本法をはじめとする関係法規，学習指導要領の趣旨を踏まえつつ，自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し，教育の真価を示さなければならないと考えます。教職員の力量を高めながら，新学習指導要領が目指す「生きる力」を育む活力に満ちた魅力ある学校づくりのために，私達宮城の中学校長は手を携え，一丸となって邁進して参りたいと考えます。

本年度の宮城県中学校長会の益々の発展と校長先生方のご健勝をご祈念し，あいさつといたします。

宣　　言

今日，わが国の教育は人格の完成を目指し，伝統と文化を尊重するとともに，豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは，新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ，新しい時代の中学校教育の課題に対応し，私たちは，自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し，新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は，東日本大震災による被災からの再生を第一義に，これまでの成果の上に立って，当面する教育課題の解決を図り，特色ある学校づくりに努め，県民の付託に応える決意である。

ここに，第71回総会に当たり，下記事項を決議し，その実現に期する。

決　　議

一　人間尊重の精神に徹し，「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」を育む教育に努める。

一　新学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し，確かな学力の定着，豊かな心と健やかな身体の育成に努める。

一　現在の教育課題に即した研修を充実し，教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。

一　創意ある教育活動を展開し，家庭・地域社会から信頼される，開かれた学校づくりに努める。

一　教育活動の活性化を目指し，人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備を期する。

一　「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し，教育水準の維持向上を期する。

一　学校が担うべき業務の明確化・適正化をはじめ，働き方改革を推進し，新しい時代に求められる学校づくりに向けリーダーシップを発揮する。

令和２年６月２日

宮城県中学校長会

新　任　抱　負

「町の復興につなげる ふるさと教育の実践」

丸森町立丸森中学校長
和田山　秀　博

新任校長として，「魅力ある学校づくりを目指す」という確かな決意を持って，ふるさと丸森町へ赴任しました。母校は大内中学校ですが，８年前に町内の５つの中学校が再編統合により丸森中学校となりました。令和２年度は，教職員30名，全校生徒263名のスタートとなりました。学区は，筆甫，大内，小斎，金山，丸森，舘矢間，耕野，大張で全校生徒の約43％がスクールバスを利用しています。

昨年10月の令和元年東日本台風で本町は甚大な被害を受け，連日被害状況がマスコミで報道されましたが，未だに町内各地にその爪痕が大きく残り，復旧にはまだまだ時間がかかりそうです。仮設住宅が6つの地区に設置され，そこから通う生徒は20名を超える状況となっています。

台風災害からの復旧に向けた取り組みの中，追い打ちをかけているのが新型コロナへの対応です。入学式，始業式は予定通り４月に実施できましたが，その後臨時休業に入り，ようやく６月１日に学校再開となりました。

このような状況であるからこそ，子供たちに地域に誇りを持たせたいと考え，ふるさと教育に力を入れています。平成28年度に丸森町教育委員会が作成した「丸森町子ども郷土史」は，内容が大変充実し，精査されており，社会科の地域の学習や総合的な学習の時間に活用するのに最善の資料であるため，改めて先生方に活用方法について周知したところです。また，町内８ケ所の学区の名所（丸山城，金山城，佐野製糸工場，ウバヒガンザクラ，立石等）を撮影して掲示したり，平成24～26年にかけて大河原教育事務所がまとめた管内の偉人のうち，丸森の偉人33人について，廊下に掲示して生徒の目に触れさせたり，朝読書で読ませたりと，ふるさと教育の推進に取り組み始めました。

新任校長として，我がふるさと丸森町の復興につながるようなふるさと教育に力を入れるとともに，本校の校訓「志学，至誠，修練」の実現に向けて，果敢に取り組んでまいりたいと考えています。

学校最後の一年

山元町立坂元中学校長
仙　台　晶　子

広がる田園地帯，東に太平洋，西に蔵王山へ連なる山々に囲まれ，美しい自然が広がる中，国道６号線を約２km南下すると福島県境という場所に坂元中学校はあります。ここ山元町は復興から新しい町づくりを目指し，その流れの中で，坂元中学校は，現在全校生徒52名，開校74年目の今年度で閉校し，来年度は町内２つの中学校が統合し，山元中学校として生まれ変わります。

４月新任で着任し，「校長として，ここですべきことは何か。」「校長として，今，すべきことは何か。」と自問自答してきました。披露式,始業式,入学式を含めた５日間の後，新型コロナウィルス感染防止対策による長い臨時休業。ようやく学校再開となったこの６月，生徒たちが元気に登校し，一生懸命，授業等に取り組んでいる姿に，本当に嬉しい気持ちでいっぱいですが，校長としての職責の重さを改めてずっしりと感じています。

学校再開まで，そして今も，先生方と「学校の新しい生活様式の中，生徒のために，創意工夫しできること」を考え，さらに「生徒と保護者，地域の方々，関係機関の方々等，坂元中学校へ関わる全ての方々のために，学校への感謝の気持ちや温かな思い出を持って，この一年を終えられるようにするためにできること」を話し合っています。

この話合いはおそらく今年度最後まで続くものと思いますが，最も大切なのは，学校教育目標の「自ら学び，自らの道を豊かな心で力強く歩む，健康で気力ある生徒の育成」を実現するために，学力の向上，自主性，未来へ恐れず対応する力の育成を重点に取り組んでいくことです。それが，生徒一人一人が，来年４月，新しい道や環境への一歩を力強く踏み出すための勇気，そこから先へ進むエネルギーになると考えています。

学校最後の一年。皆様のご支援をいただきながら，校長として研鑽を積み，教職員が心を一つに情熱と使命感を持って教育活動に取り組んでいくことができる学校づくりに努力したいと思います。

新　任　抱　負

「学校」のあるべき姿を問い直しながら

亘理町立吉田中学校長
島　田　　拓

吉田中学校に赴任してからの２か月。新任校長として新型コロナウィルス対応のために苦労するとは思ってもみませんでしたが，今振り返ると，初めての地域に馴染むための時間をいただいたり，世の中で様々な意見が交わされる中，「学校」のあるべき姿を自らが問い直す貴重な時間をいただいたりしたと思っています。

分散登校が始まり，最初に生徒に出会った５月中旬，全校生徒89人全員が目を輝かせて登校する様子を見ながら，私は改めて「学校は楽しいところなんだ」と確信しました。心配していた休校期間の影響もなく，この文章を書いている今現在まで，生徒たちは感染予防のための「新たな学校生活のルール」に対応しながらも，生き生きと，一生懸命学習等に取り組んでいます。もちろん，この日に至るまで，懸命に努力していただいた先生方や保護者，地域の方々に，心から感謝いたします。

今後は，第２波に備えたオンライン授業などの体制づくりも必要になってくると思いますが，やはり，基本は，「学校の楽しさ」を充実させる，様々な工夫・努力を続けていくことが大切だと思います。「共に学ぶ楽しさ」「共に何かを創りあげる楽しさ」などは，学校だからこそ味わえる醍醐味があります。様々な課題，制約がある中で何がどこまでどのようにできるのか。これからも，その時々の状況を見ながら，常に考え続けなければなりません。

今年度立てた学校教育スローガンは，「みんなでつくる，明日を切りひらく学校」です。幸い，本校には生徒一人一人に寄り添い，献身的に日々の職務に取り組む先生方，学校を様々な面で支えようとする協力的な地域の方々，そして，何より素直で明るく，一生懸命な生徒たちがいます。これらの人たちが知恵を出し合い，協力し合うことができれば，必ずこの未知の状況を切りひらくことができるはずです。私は，この「チーム吉中」の舵取りを任されている身として，しっかりと取り組んでいきたいと思います。

グローカルな人材の育成

七ヶ浜町立七ヶ浜中学校
髙　橋　禎　毅

校長としての重責を心底感じながら迎えた４月１日の着任日。中学校では，部活動で登校している生徒が赴任した教職員を出迎えることが多いものですが，今年は生徒が誰一人いない中での着任となりました。あれから２か月の時を経て学校をようやく再開できた今，朝に昇降口前で生徒とあいさつを交わすことから始まる何気ない毎日に幸せを感じているとともに，校長としての判断と決断が連続する日々の中で，改めて職責の重さを痛感しています。

七ヶ浜町は，その名のとおり，菖蒲田海水浴場が有名な菖蒲田浜をはじめとした７つの浜から成る東北で一番面積が小さい町です。海を中心に自然にも恵まれた環境にあり，本校の生徒の様子からは，学校だけでなく，家庭で，そして地域で子供たちがしっかりと育てられていることが実感できます。七ヶ浜町では，震災後の町づくりのグランドデザインに沿い，学校と地域が一体となって「世界を見据えて，地域に根ざす」ことを目指した教育を推進しています。学校教育の重点諸施策を「七ヶ浜・グローカルＰＲＯＪＥＣＴ」として展開しており，町内の２つの中学校と３つの小学校が思いを一つにしながら教育活動を推進しています。グローカルとは，グローバルとローカルからの造語です。この言葉は，社会の変化に対応しながら，地域の人材を育てていこうとするねらいをよく表しています。中学校では，英語の授業で「七ヶ浜５ラウンドシステム」という指導法を取り入れていることが大きな特色であり，この推進を通して，授業の充実とコミュニケーション能力の向上を図っていきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症への対応に追われ，多くの行事が中止や授業時数の縮減等，この先の不安の種は尽きないのですが，「グローカルな人材の育成」という大きな目標に軸足を置き，生徒も教職員も輝く学校づくりにこつこつと取り組んでいきたいと考えています。

新　任　抱　負

百年に一度の国難に生きる今

塩竈市立第二中学校長
田　原　　満

臨時休業が続く中，未だかつて誰も経験したことのない状況下において，塩竈市立第二中学校長を拝命し，着任してから２か月が過ぎようとしている。

「これまで以上に私たちの『より柔軟な対応力』が求められる新年度。不安感を口にすることなく，こんな時だからこそ『夢や希望』を語り，明日へ向けて，未来へ向けて活力となるメッセージや行動を発信してほしい」これが，私の職員への第一声であった。

オンラインで学べる今，学校の存在意義とは何か，何のために学校へ行くのかを改めて問いながら，全職員で信念を持って教育活動を展開することを誓った。

日々，不安と闘いながら家庭で過ごす生徒たちのために，学校が再開された時をイメージしながら様々な施策を提案し，取り組みはじめた職員。明るく，前向きに職務を遂行する職員に囲まれている私は幸せ者である。

百年に一度の国難に生きる今・・・

今日の最善が，明日の最善とはならない日々が続き，決断・決断の連続である。「君子は日に三転す」という言葉があるが，今日の君子は日に三転では間に合わず，百転する。

刻々と変化する状況を的確につかみ，生徒の安全･安心を第一に考え，校訓である「親和一誠」「自発協力」を基本とし，目指す学校像である「学びと感動と温かさのある二中」を目指しながら，一人一人が「意欲・勇気・笑顔」を持って学校生活が送れるよう努力したい。

そして，誰もが正しい答えを持っていない時だからこそ，校長としてのリーダーシップを真に発揮し，全ての困難に打ち勝つために生徒･保護者･地域・学校が一体となって，魅力ある学校づくりを進めていきたい。

「チーム二中」を合い言葉に。

「チーム色麻」一丸となって

色麻町立色麻中学校長
山　尾　健　一

色麻小・中学校に赴任して２か月が経ちました。学校に初めて伺ったとき，堂々と並び建つ小・中学校の校舎から，未来を担う児童・生徒や学校教育に対する色麻町の大いなる期待を感じ，身の引き締まる思いで眺めておりました。職責の重さを痛感するとともに，教職員と力を合わせ，よりよい学校づくりに力を尽くそう，と決意を深く心に刻んだ瞬間でもありました。

本校は，平成26年４月，色麻小学校，清水小学校，色麻中学校を統合して色麻町立小中一貫校色麻学園として開校し，今年で７年目を迎えました。宮城県北西部の豊かな自然に恵まれ，田園地帯の農業を基幹産業とする地域であり，現在児童338名，生徒195名が学び舎で過ごしております。

学校教育目標「よく学び，心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成」の具現化に向け，「揃えることと違えるところ」を意識しつつ，「チーム色麻」一丸となって教育活動を行っています。

本校の教職員は前向きで一体感があります。新型コロナウイルスへの対応にも，全教職員で取り組んでいます。そして，「毎日の検温確認の登校指導において,『今日も熱がなくてよかったね』『今日も頑張ろう』と今まで以上に児童生徒一人一人に声を掛けられるようになりました。」とか，「目を見て挨拶する児童生徒が増えました。」「放課後の清拭に取り組んでいるおかげで，教室の机がいつでも整然と並んでいます。」などの声も聞かれます。その他にも，教育計画等の変更が生じた場合，速やかに代案を示してくれたり，２，３年目の教員が初任者教員を励ましている光景もよく見掛けたりします。色麻学園の児童・生徒，教職員と出会い，このようなよさを日々実感できていることに幸せを感じております。

今後も悩み，迷うことも多くあると思いますが，児童・生徒の生き生きとした笑顔，教職員の子供たちへの愛情や情熱を自分自身のエネルギーとして，学校づくりに努めていきたいと考えています。

新　任　抱　負

『タフであれ！』

栗原市立栗原南中学校長
吉　田　　正

平成２年に宮城県の教員に採用されてから早いもので30年が経ちました。埼玉県で生まれ育った私が宮城県で採用され，栗駒中学校に赴任したことを昨日のことのように思い出します。引っ越し業者のお兄ちゃんが帰り際に，「寂しくなったら，いつでも迎えに来るから。」といって帰って行きました。それから30年，多くの生徒を送り出し，多くの先生方と出会いました。そして，諸先輩方の教えが今の私の教員人生に大きな影響を及ぼしていることは確かです。そんな中，初任地である栗原の地で校長として勤められることに喜びを感じています。

さて，栗原南中学校は統合・再編２年目の学校です。これから伝統の礎を築いていく学校です。先輩から後輩へ受け継がれていく誇りあるものを生徒，先生，保護者，地域の方々の四者で創り上げていきたいものです。私が今の生徒に望むものは『タフであれ！』です。精神的にも身体的にもタフな生徒をつくりたいと思っています。ある本に今の日本の子供たちは，過剰なサービスや過干渉に慣れてしまい，思考力や判断力，行動力に悪影響が出ていると書かれていました。私もそう感じるところがありました。そこで，校訓である「友愛」，「創造」，「共生」を柱とした教育活動に『タフ』というスパイスを加えた学校経営をしていきたいと考えています。

新型コロナウイルスの影響で，学校現場はその対応に追われています。しかし，先生方は精力的に働いており，頭が下がる思いです。５月21日から学校がスタートしました。やはり，学校は生徒がいての学校であることを，改めて感じました。生徒の声が校長室に聞こえてくると，とても気分がよくなります。私が教員として過ごした30年間の経験でインプットしたものを生徒や先生方にどれだけアウトプットできるかわかりませんが，学校教育目標の達成に向かって邁進したいと思っています。

「逆境をバネに」
～一に「命」二に「生き方」～

東松島市立矢本第二中学校長
松　﨑　和佳子

「新型コロナウイルス感染症」。初めて聞く名前と経験したことのないこの事態に，学校は大きな局面に立たされていると感じる。東日本大震災や台風１９号の時とは違い，子どもたちのそばにいて，手を握って声をかけ合うことやみんなで肩を寄せ合って，話したり励まし合ったりすることはできない。マスク越しの会話と顔半分の表情からは，なかなか気持ちが分からない。そして，伝わっているかも不安になる。信じるのみである。

毎日のように入ってくる新しい情報。国や県，市としての方針や決定事項を確実に受け止めながら，それを校長として，本校の実態に応じて誠意を持って職員に伝え，実行していくという重責を強く感じている。自ら心を開き，今できることを職員とともに考え，悩み，手探りで最善の対策を講じ，みんなを信じて，やっと今日まで歩んできたというところである。変わる指示に対しても理解を示し，気持ちよく臨機応変に行動する職員に感謝の気持ちでいっぱいである。「学校は，子どもたちがいてこそ。」である。が，しかし，それ以前に，職員一人一人の熱い「思い」で成り立っているのだ。コロナ渦でそう確信した。生徒たちに真剣に向き合い，話しをする教員，生徒たちのために一生懸命工夫をし，汗をかいて環境整備をする職員，そうした姿に毎日感動している。時に涙が出る思いになる。

また，校長会という横の連携もありがたい存在である。諸先輩方のアドバイスや時間がない中でも，快く相談に乗ってくださる校長会の皆さんに感謝してもしきれない。

今こそ，この逆境をバネにして，一に「命」二に「生き方」という言葉を念頭に，子どもたち，そして職員の輝く瞳のために力を尽くしていきます。

新　任　抱　負

「あまねく光みなぎるところ　丘あり柏陵　望みも高く」

石巻市立門脇中学校長
千　葉　正　人

４月１日，新型コロナウィル感染症対応が余談を許さない状況の下，本年度は，宮城県東部合同庁舎で辞令をいただきました。その際，東部教育事務所 所長 樋口英明 様から「（校長）辞令を頂いた，今の気持ち」について問われたことを思い出します。私は緊張していました。校長として頂く最初で最後の辞令，「これから校長として学校運営をしっかり行う」ことを決意することができた辞令交付式でした。

赴任して２か月が経過しました。本校は，令和２年度を最後に閉校することが決まっております。

東日本大震災の影響もあり，平成22年度の生徒数は342名，現在は112名になり，10年前より230名が減少したことになります。校歌に「あまねく光みなぎるところ　丘あり拍陵　望みも高く」という歌詞があります。柏陵の学び舎から巣立った卒業生は，17,299名になります。開校から74年の歴史に幕を下ろすことになります。改めて伝統の重みを感じています。

統合に向けて，生徒が自分らしさを出しながら生活できるよう，心の面も支えながら準備を進めていきたいと思っています。統合後，学校生活で緊張が続いたり，人間関係で悩んだりすることがないように，教職員一丸となって取り組むことが重要だと考えています。

最後に，この石巻市は東日本大震災の最大の被災地になります。そのことを教訓に，生徒が安心安全で学校生活を送られようにようにすることが第一。災害等で子どもたちの命がなくなってはいけないという強い気持ちで学校運営にあたっていきます。

「生徒が生き生き活動して，一人一人が輝く学校」を目指して。

『新任校長としての抱負』

女川町立女川中学校校長
伊　藤　拓　巳

令和２年度は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中でのスタートとなりました。

４月８日，着任式・始業式で出会った生徒たちの凛とした佇まい，入学式に臨んだ新入生の，初々しくも大変立派な姿に感動し，この生徒たちを「心豊かでたくましく」(本校目指す生徒像の一節)成長させたいと改めて心に誓った次第です。

８月23日，本校は「施設一体型小中一貫教育学校」として，新たなスタートを切ることとなっております。現在，新校舎の外観はその全容がほぼ明らかとなり，内装工事が急ピッチで進んでいるところです。町長をはじめとした町民，保護者，そして何より児童生徒の思いや期待が凝縮された新たな学校の校長として，小学校の校長先生との連携を密にしながら，「小中一貫教育『女川プラン』」の実現に向けて，新型コロナ禍の中ではありますが，邁進したいと考えております。

しかしながら，思いとは裏腹に，この２か月間の自分はどうだったか･･･，職員の「教頭先生！」という呼び掛けに「はい！」と返事をしてみたり，打合せの席で「教頭先生から」という言葉に反応して起立してみたりと，ふとしたタイミングで教頭時代が「降りて」きてしまいます。校長としての自覚と責任を再度肝に銘じ，地に足の着いた学校経営を進めていくことが，目下の課題です。

将棋の格言に「一歩千金」という言葉があります。駒の中で最も価値が低いとされる「歩」でも，局面によっては千の金にも匹敵する働きをする，それくらいの価値がある，という意味です。

存在感を示す飛車や角，バランスのとれた金や銀，他とは少し違う動きをする桂馬，後戻りせずひたすら突き進む香車，このような駒ばかりではなく，「歩」にもしっかりと目を向け，その力を最大限に引き出す，そんな校長であり，職員集団を育てたいと考えます。先輩校長先生方の，ご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

新　任　抱　負

「今日が楽しく，明日が待たれる学校」

登米市立津山中学校長
千　坂　佳　織

新型コロナウイルスが感染拡大し，臨時休業が続く中での赴任からまもなく２か月を迎えようとしています。

本校は，昭和50年４月，柳津中学校と横山中学校の２校が統合して開校し，今年度で45年目を迎えます。四方を緑に囲まれた本校のスクールカラーは「緑」です。初代校長鈴木林太郎先生は「緑」は未来への希望と限りない発展のシンボルとし，いつも心に「緑」のような新鮮で，しかも躍動する「若さ」を子供たちに期待し，開校式において，学校を町の名所「緑の丘」にしようと生徒たちに呼びかけました。当時の「広報つやま」を読み返すと，開校は，生徒はもちろん，保護者や地域の方々にとっても希望の光だったことが分かります。

この希望の光は現在にもつながっており，平成30年度から本校は教育活動に関心を寄せ，協力を惜しまない保護者や地域の方々と共に「コミュニティ・スクール」として，「優しさと逞しさを兼ね備えた『生きる力』を身に付けた生徒の育成」を目指し，地域に根ざした教育活動を展開しています。そのような環境のもと，生徒たちは「宮城県 No.1を目指して！飛び交う挨拶，輝く津山中生」を合い言葉に，元気に明るく様々な活動に取り組んでいます。特に生徒会活動においては，災害時に活用できる車椅子を購入し，地域に贈呈しようと募金活動に取り組んでいます。また，「置き勉」に関する事項を生徒総会で取り決め，「自己管理のもと，学習用具を置いていってもよい」とし，よりよい学校生活を送るために生徒自身の手で約束を作りました。自分の責任で，自身の生活と学習を管理していくという姿勢に生徒たちの自律と自立，可能性を感じます。

コロナ禍で，当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなった今だからこそ，生徒も職員も，「気づき，考え，行動する」ことを大事にしていこうと考えています。職員一丸となって，生徒と共に「今日が楽しく，明日が待たれる学校」づくりを進めていきたいと思います。

「地域の教育力」

気仙沼市立階上中学校長
田　中　　謙

感染症対策や学習の保障，学校行事や部活動，日々変わっていく情報に右往左往しながら，校長としてどう判断するか，何を根拠に判断すればよいかなど自問自答しながらここまで来ました。責任の重さを実感しつつ，元気で素直な子供たちやそれを支えている前向きな教職員に囲まれ，毎日小さな発見や驚きを繰り返しながら早２か月半が過ぎました。

階上中学校と言えば「防災学習」です。私も，新聞やテレビなどの報道で生徒の活躍をよく目にしていました。東日本大震災という負の経験を正の取組・財産に転換してきたことは大変すばらしいと思っていました。ここに至ることができたのは，学校と保護者そして地域の方が同じ目標に向かって協働し取り組んだからこそ成しえたのだと思います。先日，気仙沼の高校生がテレビのインタビューの中で，「地域のために役立つような仕事をしたい」と答えていました。本校の卒業生で消防士をされている方も同じようなことを言っていました。郷土を想い，故郷を愛しているからこその言葉だと思います。今は地域と子供，地域内の大人同士でさえ関係が希薄になっていると言われ，学校では「ふるさと教育」の推進や道徳でも郷土愛を育むことが求められていますが，この地区は郷土を想う風土が根付いているようです。

子供は身近な大人の姿を見て育つとよく言われますが，この地域は大人が元気。地域のため，学校のために労を惜しまず働く姿は，子供たちには，生き生きしていると見えているのだと思います。だから，子供たちは，「早く大人になりたい」「大人になって○○さんのように頑張りたい」と身近な大人に憧れをもち，テレビに出ていた高校生の発言につながったのだと思います。

子供に直接かかわる私たちも，教師として，大人として魅力ある存在となるよう，先生方の専門性を生かした学校経営を行い，地域の力をお借りしながら子供たちを育てていきたいと考えており

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 新　任　抱　負 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

「希 望 橋」

気仙沼市立大島中学校
小　山　和　彦

「緑の真珠」と郷土の詩人水上不二が讃えた自然豊かな大島。赴任して２か月，昨年４月に開通した気仙沼大島大橋（愛称：鶴亀大橋）を渡っての通勤は，とても素敵なドライブコース。わき見運転は要注意。途中，初任地の鹿折中学校区の浦島地区を通り，震災前の姿や当時の生徒たちの顔を懐かしく思い出す。そして，今年度末に完成予定の三陸沿岸道路気仙沼湾横断橋に目を奪われる。また，鶴亀大橋からの眺めは，左右どちらも絶景で，開通の祝歌である，熊谷育美の「希望橋（のぞみばし）」をＢＧＭに渡れば文句なし。

４月１日の着任のとき，生徒たちとの初対面。地域の行事等でもたびたび披露している伝統の「島中ソーラン」で出迎えてもらい，明るく和やかな雰囲気の中，校長として気持ちのよいスタートを切ることができた。

職員室には顔馴染みの先生が多い。また，隣接する大島小学校の加藤校長先生は，高校のクラスメイトであり，これもとても心強い。

特色ある教育活動の一つである「ホタテ養殖体験学習」をはじめとする「海洋教育」は，保護者，地域の方々のご協力により充実した学習が長く続けられている。

このように，この上無く恵まれた環境での船出であったはずでしたが，感染症拡大防止措置による臨時休業の延長，学校再開後の「新しい生活様式」などなど，校長として何をすべきか，何ができるのかを日々悩みながらの毎日でした。

「『和顔愛語』で，生徒たち，先生たちの笑顔があふれる学校」これが本年度の校長のスローガンです。コロナ禍のご時世ですが，こんなときだからこそしっかり前を向き，明るい笑顔で頑張っていこうと，ことあるごとに話しています。

♬ああ　ここは気仙沼　ああ　希望ののぞみばし

朝，子供たちの明るく爽やかな挨拶で一日がスタートします。この子たち，そして地域のために微力ながら精一杯取り組んでまいります。

編 集 後 記

○　今回の会報は，例年より縮小した形での発行となりました。本来であれば132名の校長先生方が一同に集うはずの総会も縮小した開催となり，ご退職なさった校長先生方に敬意を表する場も，新しくお仲間となった校長先生方を共に激励する場もありませんでした。それでも,「私たちは手を携え,一丸となって邁進しましょう」と，総会のあいさつの中で中里会長が話されました。

私たち校長は，コロナウイルスとの共存の中で，宮城県教育の一層の充実・発展に努めていかなければなりません。

共に頑張りましょう。

○　今回，13名の校長先生方から，新任校長としての抱負や感想等を寄せていただきました。着任早々コロナ対策に追われ，校長としての責任の重さに戸惑いながらも，理想とする学校像の実現に向けて奮闘している熱い思いが伝わってくる内容です。

○　情報部では今後，中止となった「第38回宮城県中学校長会研究協議会 女川大会」に向けた各地区校長会の取組を紙面で発表していただく予定です。

原稿執筆等，ご協力のほどよろしくお願いします。

○　暑さが本格化してきます。熱中症にもお気をつけてお過ごしください。（情報部　髙橋）

令和２年度　宮城県中学校長会事務局

〒985-0851
多賀城市南宮字八幡170
多賀城市立第二中学校内
TEL：022-309-1351
FAX：022-309-1352
E-mail：miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp
事務局員：佐々木　奈美子

宮城県中学校長会ホームページ
http://www13.plala.or.jp/miyagi-jhs/